

【外国語活動・小3・「ALPHABET」】①

育成を目指す資質・能力

＜本時のねらい＞

活字体の大文字の形に慣れ親しむ。

ICT活用のポイント

自由にカードを動かせる機能や、塗りつぶしたり消したりできる機能を使用することで、大文字の形に慣れ親しむことができるようにする。

【つかむ】

本時のめあてをつかむ。
アルファベットの大文字の形に慣れる。

【追究する】

アルファベットの仲間分けをする。
スクラッチゲームをする。

【まとめる】

振り返りカードの記入をする。

事例の概要

- アルファベット（大文字） 26字の形に注目し、どのような分類ができるかを各自で考える。
- アルファベット（大文字）の一部だけを見て、どの文字かを当てるゲームをする。

【事例におけるICT活用の場面】

- 自由にカードを動かせる機能を活用し、文字の形について自分で考えた仲間分けの視点に基づいてアルファベットカードを移動させる。
- アルファベットを1文字選び、塗りつぶし機能を使って文字を隠しておく。相手が消しゴム機能を使って、塗りつぶした部分に指で線を引き、見えた部分からどの文字が隠れているかを当てる。

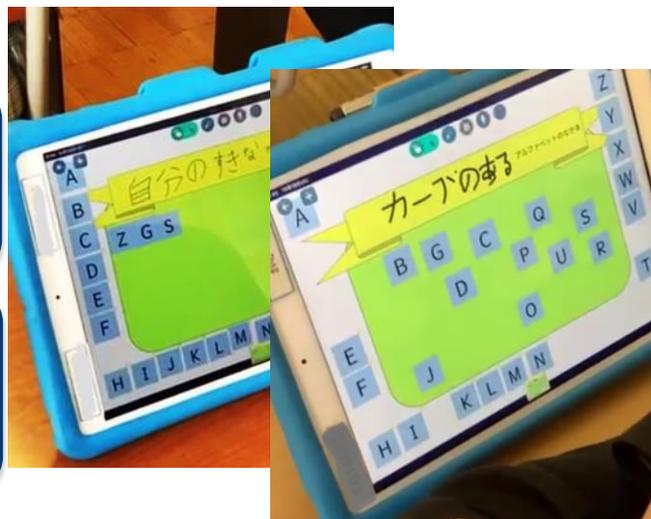
【外国語活動・小3・「ALPHABET」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

アルファベットの大文字を自由に仲間分けしよう

ここに仲間分けの視点を記入する。

アルファベットのカードは自由に動かすことができる。



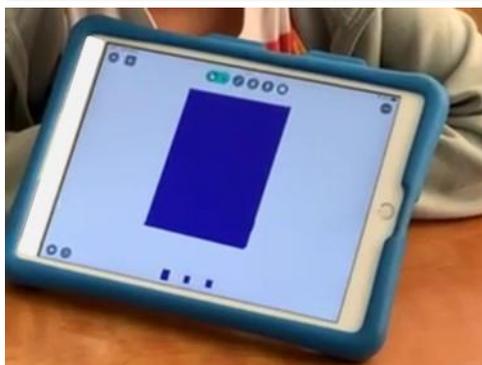
実際に児童に考えた仲間分け

アルファベットのカードを自由に動かすことができるので、児童は試行錯誤しながら、どのような仲間分けができるか考えていた。活動後に画面共有することで、他の児童がどのような仲間分けをしたのかを知ることができ、新たな分類の仕方に気づき、アルファベットの大文字の形に慣れ親しむことにつながっていた。

児童に配信された最初の画面

【事例におけるICT活用の場面②】

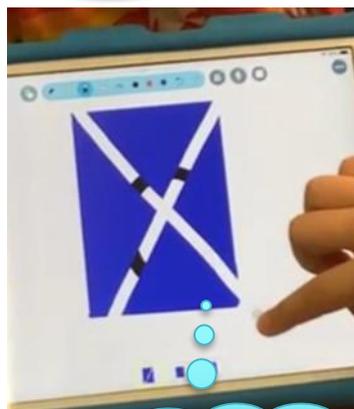
スクラッチゲームをしよう



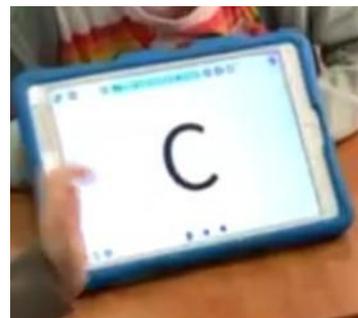
アルファベットを塗りつぶして隠しておく。



消しゴム機能で一本線を引いていき隠れているアルファベットを当てる。



わかった！「C！」



正解が出たら、「全消し」の機能を使い、隠れていたアルファベットを提示する。

ペアや、小グループ（出題者1人回答者2人）での活動など、様々な活動形態で行うことができる。単に交互に消していただくだけでなく、「Do you like blue?」などと相手の好みを尋ね、「Yes.」と答えがもらえたら消しゴムで一本線が引けるというふうに、既習のやり取りを取り入れることもできる。

【活用したソフトや機能】
・学習支援ソフト